

なりとぞ、

〔裏見寒話三河〕地藏ヶ嶽酉戌方

此山上に、自然と地藏の形したる大磐石ありといふ、天氣快晴なれば、地藏の形したるもの、府下より見ゆる、麓の村よりは、縁日ありて半履迄は上るといふ、駒がたけにならびて峻嶺なり、

〔裏見寒話三河〕金峯山北隅芳野山のうつしといふ、

絶頂に御嶽權現の小社、勝手明神有といふ、御嶽より七里奥の院荒川は爰より流れ出る、此山より、淺間山、越中立山、加州白山、妙義山、榛名山、佐渡の國等、快晴の時は見ゆる、

〔甲斐名勝志四巨麻郡〕金峯山梨三山絶頂に祠有、藏王權現を祭る、御嶽の社の本宮也と云、國民八九月の頃登る、水精磁石等を産す、荒川の源は此山より出る、又北へ流る、水は、信濃の佐久郡へ出、千曲川となる、一説に、此山をいくかのみねと云は、風雅集に、順徳院の御製、ちくま河春行水はすみにけりきえていくかの峯の白雪といへる御歌より云なるべし、予按ルに、唯きえていくかに成ぬる峯のしら雪と云意成べし、金峯山の名を、いくかのみねと云は、後人の鑿説ならん、

〔甲斐國志二十〕巨麻郡北山筋

一金峯山キシナカ府北拾貳里、山頂ニ藏王權現ヲ祀レリ、州ノ北鎮ニシテ、享保中勅許、八景ノ一ナリ、背面ハ信濃、武藏、上野等ニテ、凡方貳拾里ニ跨ガルト云、山口九所アリ、所謂南口ハ、吉澤、塙原、龜澤、東口ハ、萬力、西保、袖口、西口ハ、穗坂、江草、小尾、各里宮、鳥居嶺、精進川、帶締川ナド云處アリ、○中山上ヨリ四方ヲ臨眺スレバ、信越、二毛、武相、豆、駿、遠三、濃飛、諸州ノ高山、一覽シテ盡スベシ、抑、金峯ノ爲山、土肥巖ハ靈ニシテ、御嶽ノ杉柏本州ニ冠タリ、其餘良材、奇草、水晶、石英、磁石、玄石等ヲ產ス、又金礦多シ、號シテ神物ト稱シ、古ヨリ山ヲ鑿チ採ルコトヲ禁ズ、又水脈多ク、笛吹川、荒川、鹽川、信州ノ千隈川等、皆ナ此山ヨリ發源シ、古人所謂金生麗水ト云モノ不誣ナリ、峠中紀行ニ、北